（明治四十九年八月十日第三種郵便物認可）

# 京城日報

廿三日夕刊

本紙定價 一部金一錢五厘 一ケ月金五拾五錢 三ケ月金一圓六拾五錢 半年金三圓 一ケ年金六拾五錢 郵税共金七圓 廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲二行金一圓 ▲三行金一圓五拾錢 ▲六行金三圓 ▲廣告欄内一行金拾錢 ▲二行金拾五錢 ▲三行金二拾錢 ▲六行金四拾錢 ▲廣告欄外一行金二拾五錢 ▲二行金五拾錢 ▲三行金七拾五錢 ▲六行金一圓 ▲廣告欄内外

# 腕の力、頭腦の力

## 戰時に於ける獨逸精神の發露

伯林大學日本語講師　辻高衡氏談

『京城線車中に於て』

日本の新聞に依て報道さるゝ所の獨逸の消息と云ふものが何れの方面より齎さるゝものかは知らないけれども其報道の如く獨逸が決して戰爭のために疲勞して食糧品は缺乏し兵員の補充に不足を告げ各工場は作業を休むと云ふが如きことはなく從つて獨逸國民が戰爭の永續を呪詛すると云ふことも亦全然間違である寧ろ多くの獨逸國民は正義の戰のために益々奮鬪努力せんとすることのみを心掛けて居るのである只平時に比して食糧品を始め其他の日用品の需給關係に於て多少の不足を生じたことは爭はれぬ事實であるけれども此點は獨り獨逸のみと云はず何れの交戰國と雖も皆同一の運命に遭遇して居るのである獨逸國民の上下は

△今後幾年間戰爭が繼續さるゝものであるやを知らざると同時に決して平和を欲して居ない伯林に於ける現狀に就て云ふも商工業其他社會一般の狀態は殆んど平常と異なる處なく各機關の運轉を續けつゝあるのである只壯者の多くが戰線に立つことになつた爲に電車の運轉手郵便集配人等の如き一部男子の手を煩して居た職業が稍弱なる婦女子の手に由て辦せらるゝことになつたのも家事上或は社會上に男子の手を用ひた四五の事務か老人又は婦人に移つた位の現象はあるけれども元來獨逸の現狀が四面に敵を受けて外部との接觸を斷たれたるものであるから止を得ず從來外部から供給を仰ぎつゝあつた所の日用品其他は

△自國の手一つで處理する——つまり自作自給して行かなければならなく成つたのであるだからして各種の製造工業に要する勞働者の如きも必要缺く可からざるもの即ち婦女子を以て代る可からざるものにありては兵役の召集を猶豫して其業務に就かしめてある故に今後幾年戰爭が繼續さるゝとしても需給關係に一大缺陷を來すべしなどゝは思ひもよらぬことである苟にも獨逸は六千八百萬の人口を包容する大國なれば局外者の見るが如き簡單なる組織なものではない從つて伯林市街なども平時の如く商店の營業も行はれ夜間なども各市街共數百乃至千數百燭の白熱燈點火され八時の閉鎖時限迄は白晝の如く

△晝夜の別さへ付かぬ賑さである只多少戰亂の影響とも稱す可きものは點燈數の一二減せられたる位に過ぎない各種の夜會其他の集會等の慣しもあり戰時と雖ふは一種の氣分に過ぎぬかの感じさへせらるゝのである何しろ三年にも近い長期の戰爭であるからして初の間こそ一大事件として大騷ぎをしたが今日にあつては戰爭が一種の

## ▼國家的に事務化せられ

たと云ふやうな姿になつて來て戰鬪員は戰線に立て勝利を爭ひ非戰鬪員は後部にあつて日常の業務に從事すると云ふやうな分業的になつて來たので此樣にして獨逸は所謂舉國一致の戰爭をして居るのである然らば何故に獨逸が今日の如き

△富國強兵の結果を來したかと云ふに種々な原因もあり之を話せば到底容易のことではないが要するに獨逸人は何十年間鍛錬したる國民の『腕と頭腦』の力を以て今日の强さを爲して居ると云つて差支はあるまい或人は獨逸人は戰爭に强い國民だ商工業が發達して居るなどゝ今更吃驚して居るやうであるけれども即ち前言の如く今日の富國强兵は何十年來國防努力の一朝一夕な俄作りの富國强兵ではない從つて戰爭なるが故に强きにあらずして平時でも强かつたものが戰爭と云ふ大な刺戟に過つて一層强いのである以上の如き有樣であるからして獨逸では平和運動の如きものも勿論起らず基督教徒も教義を曲げて戰線に立つて居るやうなものであつて

△オイケン教授の如きも今や國內に於て各種の演說會に臨み又は慈善的事業を助けなどして戰鬪員の義務を果して居るやうな位である此外別に平和問題のため宗教家が手を著けると云ふやうなこともないそれならば獨逸は果して目下の戰況が勝利であるかと云ふに今日の處勝敗何れとも區別がつきかねるのである獨逸人が日本人に對する感情とは云ふものゝ妙な感じのする味方も敗けたとは稱して居らぬは戰の慣習とも云ふべきか英佛露等に對するよりも一層强く深く日本人を憎み且つ恨んで居る勿論交戰國同士のことであるから互に反目するのは普通のことではあるが特に日本人に對して强烈なと云ふの理由は

△日本が青島を占領したことを非常に遺恨に思つて居るらしい日本は今日迄兵事學術等の方面に於て獨逸に學ぶ處多く而かも平素武士道の高潔なる精神を表明して國是とする國民であるから防備力の薄き而かも嫉妬の途なき青島を赤見ても殺ずやうな手段を以て占領したるを不德の極として日本を恨んで居るのである從つて此先平和克復後と雖も日本人に對する感情の融和も容易であるまいかと思はれる併し日本が獨逸の俘虜に對する取扱振りが極めて文明的なもので俘虜等も亦滿足して居ると云ふことは獨逸の上下共に認むる處であつて感謝の念を以て迎へられ日刊の新聞紙上等にも其等の消息文さへ加へて日本に在る俘虜から寄こした喜びの意味のある手紙などを寫眞版にして掲載されたる獨逸の最初は多少不安の念に驅られて躊躇に備へてある事だ伯林で發行して居る日刊新聞等には日本の外務大臣が出張先でなしたる演說の如きものまでも極めて詳細な外國電報として掲載されて居つた此一事を以て見ても如何に

△危險もなく無事に歸朝することが出來たやうな次第である外出の出來るやうになつたのを幸に圖書館などにも行つて見ると驚くではないか如何にして手に入れたものか殆んど世界各國の主なる新聞雜誌を網羅して閱覽に備へてある事だ伯林で發行して居る日刊新聞等には日本の外務大臣が出張先でなしたる演說の如きものまでも極めて詳細な外國電報として掲載されて居つた此一事を以て見ても如何に

△戰前に於ても日本に對して餘り多くの興味を以て居なかつたもので自分の關係して居た東洋語學校の如きも多くは支那語研究を爲すもので日本語科は戰前十五六人の學生があつたけれども今日では兩三人の少數に減じ自分の歸朝と共に全く日本語の因緣は斷絕の姿となつて終つた是れに依つて觀ても如何に獨逸が支那に對し遠大の欲望を抱持して居るかを察することが出來るのである

△陸軍大學等に於ける獨逸の軍事的教育が如何なる方法に依つて行はれて居るかと云ふことは外國人たる自分には充分に識ることを得ないけれども前にも話せし如く頭腦の人腕の人を造らんとの爲にする苦心は一通でなく國民も亦軍事教育に對して一種の興味を持ち働く迄も軍國主義の本能を發揮せんことに腐心して已ないのである是等は戰時に於ける獨逸の現狀の一端に過ぎないのであるが今後戰局が如何に推移して行くかと云ふことは無論豫想の限りに非ずして交戰國自身も恐らくは判つて居ないと考へる

△今後戰爭の正義なることを謳歌した日本の新聞に依て報道さるゝ所の獨逸の消息と云ふものが何れの方面より齎さるゝものかは知らないけれども其報道の如く獨逸が決して戰爭のために疲勞して食糧品は缺乏し兵員の補充に不足を告げ各工場は作業を休むと云ふが如きことはなく從つて獨逸國民が戰爭の永續を呪詛すると云ふことも亦全然間違である寧ろ多くの獨逸國民は正義の戰のために益々奮鬪努力せんとすることのみを心掛けて居るのである只平時に比して食糧品を始め其他の日用品の需給關係に於て多少の不足を生じたことは爭はれぬ事實であるけれども此點は獨り獨逸のみと云はず何れの交戰國と雖も皆同一の運命に遭遇して居るのである獨逸國民の上下は

## ◎鎭岑嶺の激戰　連山の露營

### 第四十旅團演習の第二日及第三日

二十一日朝四時米國陸軍東軍の如何に頑強の抵抗なりやを大山なる吉嶺さんと陣地攻撃の命令に接し直ちに連山の敵に向かつて攻撃を開始せり

△鎭岑嶺の戰　西軍は本隊が鎭岑の峻部を越したる情報を得たれば徐々に後退し東軍は再び追撃を始め甚だ急なるものあり依て西軍は再び鎭岑嶺峻部に砲列を築き展開し他まで東軍を拒止せんとせり其地點は既に二十日の開戰當日東軍をして其所在を知るに苦しましめたる萬夫不當の要地なれば東軍は進路を苦しめらるゝのみならず徒らに時間經過するを以て前衛及び本隊と俱に展開し峻部に向つて攻撃を加ふ漸次東軍の進擊し來るを見た西軍は茲に守勢を捨てゝ强烈なる逆襲をなし東軍を翻かしたるも何分衆寡敵し難く敗走し多大の時間を經過せしめたる爲め西軍支隊は遂に遠ざかりたれば後衛隊の任務に成功したものと云ふべきか

▽村落露營　西軍本隊は後衛隊必死の活動により行動を隱蔽せられて龜山の高地を確實に占領する事を得たるを知り後衛隊は退却し終日も全く暮れ雨を冒ふか風寒く黑雲低く垂れ込めたれば西軍は松林又は窪地に天幕を張り東軍も又各窪地或は山腹に露營をなし時々哨兵の間に交はきるゝ銃聲は疲れし夢を破りて凄たり（鎭岑嶺露營地にて）

▽東軍の進擊　西軍の退却行動に出でしを見たる富塚支隊長は第二大隊機關銃一小隊を前衛として他を本隊として追擊を開始せり

▽佳水原の高地戰　東軍の追擊急なるを見て伊藤西軍後衛隊長は佳水院東方高地を占領し東軍を拒止せんと砲列を築き東軍の至るを待てり此情報を得たる東軍は第三大隊を展開せしめ茲に前後衛戰は開かれ

▽廿二日の戰況　西軍支隊長は鳥砲山高地を確實に占領せる西軍支隊長は廿二日正午頃鎭岑嶺方面に進出の命令を受け直ちに鎭岑嶺に向つて歩兵一大隊を急行せり

▽東軍の進擊　東軍支隊長は西軍を追擊し來り午後五時四十分頃連山西方五百米突の高地を占領せしが兵候よりの報告を受けて綜合するに敵は龜山高地より壽樂山一帶に亙り陣地占領中の如きを以て支隊は本夜現在の姿勢にて夜を徹せんと決心し獨立標高八十三米突高地より青洞西側高地後溶里東北方約三百米突の高地を經て後溶里丁南約五百米突の高地を堅固に占領し敵情を察すべく命せり然るに捜索に出でたる第二大隊を第一線とし古良橋北方に出でたる第一大隊は敵情を探索すべく命せり

▽東軍の進擊　東軍支隊長は連山西方の高地を占領し第一線左翼後方に置き時の重砲陣地より龜山方面に向け一發の砲火を送れば西軍重砲隊よりも火蓋を切り銃戰に次ぐに砲聲殷々として山谷に響き渡り西軍は遂に遠ざかりたれば後衛隊は西軍支隊に連絡し第三第一大隊を第一線とし第二大隊及び機關銃隊を鎭岑嶺方面に進出し第二大隊及び機關銃隊は鎭岑嶺方面に進出し第二大隊及び機關銃隊は鎭岑嶺方面に進出し第二大隊及び機關銃隊は

# 憐れな病人の樂園

## 鷄を畜つて、野菜を作つて

### 全羅南道小鹿島の慈惠醫院

### 哀れな人達の爲め

這回總督府が朝鮮の癩病患者を收容する目的で建てた慈惠病院は全羅南道小鹿島に設けられることゝなつた院長蟻川亨氏の談によれば病院の敷地は島の西部廿萬坪に亘り氣候と云ひ風光と云ひ病院としては實に誂へ向きの所に在る、島は高興半島の突角に在つて居金島と相對し附近に松の茂つた島々も見ゆる、病院の設備はまだ全部落成した譯ではないが目下職員の住宅、病院の設備等の基礎工事を施しつゝあるからいよ〳〵患者を收容するのは來年の一月頃であらう、從來

**朝鮮の癩病患者は**

世にも哀れな境遇に居つたもので中には乞食同然となつて市中を徘徊する者もあり或はまた迷信の結果人肉を喰うて病に觸れたやうな悲慘事もあつた――、殊に人肉を得る爲めに墓を發掘するやうなことも行はれて居たのである、慈慶其合に何等此の病氣の患者には保護も取締りもなかつたものであるから彼等の多くは

**漸次生活の容易な**

南鮮地方に集つて來た、即ち朝鮮全道に於て慶尙南道が最も多く全羅南北道これに次ぐのは此の故であらう道回小鹿島慈惠醫院の收容し得る人員は約一百名許りであらうが患者は全道から按分で收容することになると思ふ、患者は充分に治療さへすれば全治同樣になることもないから

**◎仁川驛員勵行**　仁川警察署にては四日市に於けるベスト猖獗に鑑み再慶炎の爲め仁川病院にて施療を

**◎連絡船上陸客**　廿二日午前十一時釜山入港さくら丸二等客

**◎聾者と電車**　二十一日午前十一時京城電氣株式會社の龍山行

**◎第三回朝鮮短歌會**　第三回朝鮮短歌會を來る十一月三日催に就き同好の士は十月二十七日迄に各三首宛京城日報社内朝鮮短歌會幹事宛に投稿せらるべし歌稿と共に互選稿本印刷代として郵便切手五錢封入せらるべし課題は秋に關するもの會場及び其他追つて報道すべし

**◎威信の初雪**　去る十六日午後三時頃威南水興邑に附近に少量の降雪ありたり是れ本年の初雪にして昨年に比し大差なし（元山）

**◎明太魚高模樣**　明太魚は鱈類とも云ふべき時期に近づき產地は益强狀なる模樣にて產地は益强狀なる模樣にて產地は益强狀なる模樣にて

# 宮本武藏

第百九十五回　桃川如燕口演　浪上義三郎速記

田舍で道を聞くは六ケ敷ございます此方で叮嚀に聞くと先力でも叮嚀に教へてくれる、然し餘り叮嚀過ぎて判らないことがある、南へ行つて北へ行つて西へ行つて東へ行けなどと云つて、方角で教へられてはきつぱり判りません、最も江戸子は氣が短く聞力も粗忽ですから、教へる方でも叮嚀には教へない ○『何處其處へ參りますには何う行きます』問で家にお見受け申して一夜の宿をお願ひ申します、何うか御主人へ宜しく御伺つて頂きたい ○『ハア然うでございますか、只今主人に申しますから少しお待なすつて』と奥へ入つて主人に告げたが再び其處へ出て參り ○『今旦那樣に申しましたら此方へお上げ申す樣にと云はれましたサア此方へ御上んなさいまし』『暁』それは有難ふございます』大きな盥へ水を

特製 鉢開湯もみ 真鍮本通二丁目 一番九八二 淺野商店

かすばかり 暁流石は大藏の住居である、立派なものだな 一『左樣でございます』と云つて居る處へ酒肴が出ました、大鉢と云ひ燗壺と云ひ大したもの、其處へ出たる膳椀皿小鉢等に至るまで結妍なものである、暁『二天、折角であるから御馳走にならうではないか』と兩人して酒を酌交して居る、是まで主人の喜左衛門が出て來ないといふは何うしたものだと云ふに、喜左衛門は先刻から繼側の隅に來て障子の隙間から覗いて二人の樣子を見て居た、律儀者の喜左衛門の視あたり、御仲直り召上れ一杯だから忘れぬ。

泪流れて袂を濡す。

『彼方へ行つて彼方へ曲るんで』何處へ行くのだか是では判りません暁雲は荷物を脱つて叮嚀に聞きました故彼の人も能く判る樣に教へてくれた、教へられた通り來て見ると成程大藏といふ位であるから大層立派な住居、前は三方流れ川で釣橋を渡し、後方は森、周圍は高塀でございまして、美事なもので、驚て兩人は釣橋を渡り小門の方より入つて見ると、今十四五人の奉公人が野良から歸つて來た所で鋤鍬を洗つて居る者もあり、草鞋を脱いで顔を洗つて居る者もあり、暁雲は玄關へ參つて暁『御頼申します ○『何でございます』『私共は江戸の者で儒者に畫工でありますが、御當所へ參つて道を踏迷ひ難儀をいたします者、御大家へお見受け申して一夜の宿をお願ひ申します、何うか御主人へ宜しく御伺つて頂きたい ○『ハア然うでございますか、只今主人に申しますから少しお待なすつて』と奥へ入つて主人に告げたが再び其處へ出て參り ○『今旦那樣に申しましたら此方へお上げ申す樣にと云はれましたサア此方へ御上んなさいまし』暁『それは有難ふございます』大きな盥へ水を泪流れて袂を濡す。

泪流れてくれましたから兩人は草鞋を脱ぎ足を洗つて彼の男の案内に從つて奥の一室に通る、其内に茶煙草盆などを其處へ出して暫くすると入浴をしろと云ふ兩人は入浴をして、其處に休息をして居ると ○『さア此方へお出なさいまし』と十二疊の座敷へ通しました、暁雲が見ると床の間には山水の掛物、袋戸棚違ひ棚は唐畫の山水、障子襖は嫁菜、釘隱しは金の色絵、天井は神代杉の柾目、庭は築山泉水松の古木を植ゑて目を楽ませる。

外科一般 皮膚科 泌尿器科 花柳病科
院長 安部修三
京城永樂町二丁目金光教會隣
安部醫院
電話四一九番

齒科診療 橋本齒醫院
齒科醫學士 橋本清次郎
南山町三丁目巴城館通電話二九二〇

十月廿五日九曜
舊九月廿九日乙未
本命二黑坤納光曜

▲二黑 宮氣[illegible]沈の事有る日新事其行果方は吉[illegible]坤 ▲三碧 一寸[illegible]にかゝる事有る日新事手[illegible]新事は吉 ▲四綠 新取引は用心せらるべし ▲五黃 野蛮[illegible]の所為日新事手[illegible]新事は吉 ▲六白 [illegible]の日[illegible]居入学金[illegible]名弘求[illegible]日[illegible]新事手[illegible]新事は吉 ▲七赤 [illegible]の日[illegible]居開業[illegible]行者弘求[illegible]金 ▲八白 向う見ずの事有り新事手[illegible]新事は吉 ▲九紫 位の通じる日男子は忘れ得て女子は風ひの良縁を結ぶ等 萬事吉 ▲八白 向う見ずの事有り新事手[illegible]新事は吉 ▲九紫 位の通じる日男子は忘れ得て女子は風ひの良縁を結ぶ等 萬事吉 ▲一白 ぐらぐして確りのつかの事有り新事手[illegible]新事は吉

指環及時計
仁川本町
系岐商店
電話三七〇番 京城東門外 一

胃病良藥 胃活
胃活錠 [illegible]
本舗……東京……大阪……山田安民藥房

中風病
定價 (胃活錠) [illegible]
(胃活) [illegible]
[illegible]賣 [illegible]
本舗……東京……大阪……山田安民藥房

秋の胃病
赤痢、コレラの黴菌
恐るべき花柳病
驅毒良藥 唯一无
本舗 中西莊吉

醫化學器械式
K
仁川本町 北島藥店
京城本町 北島藥店支店
永樂町丸 電話七六一番
藥種賣藥卸商
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
★ 株式會社百三十銀行
京城本町壹丁目 京城支店
電話四五八番 振替口座金京城一二三番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

朝日正確迅速無料 正氣堂名刺舗
京城本町二
電話二一九五番 振替口座京城一二八三番

七日ヤケタ鏡をごらん色白くなるゲンノ液
今東京で大評判の白粉の元素色黑き顔黃き顔日ヤケおしろいヤケ、アレを防ぎキメをコマカに根本的色白く美の美人美男子となる國の藥店小間物化粧品店に販賣す近所に品切の時は代金丈の郵便切手を送れば送品す 東京和泉橋際ゲンノ液本舗 松本藥店

秋空晴れて
野に山に 樂しき
菓子は 唯一つ
森ミルク
赤 キャラメル
煙草代用
ポケット用 大廿個 小十個
ミルクキャラメル
從會社特設の化學試驗部に於ては
藥學博士 丹波敬三氏
藥學博士 岡田春吉氏
國醫間の選定せられたる專任技師數名顧問指導の下に日日使用する原料を檢定して品質の統一を期す
5—20 東京 森永製菓株式會社 大阪

御料 御園白粉
貴夫人令孃方に盛んに愛用せらるゝ
數ある白粉の中、御園白粉が貴夫人令孃方に非常に愛用せらるゝのは、他の白粉とは其の品質が全く異ひお試になれば直お判りですが
お顔の小皺を防ぎ
肌理を細く滑に
皮膚の色艶を增し
色を白く美しく
すること云ふ他に比類のない特色がある上に、乘と伸が非常に良く濃も淡も自由に着、其化粧姿は飽迄高尚で毫も厭味がないからです。
御料 御園化粧品本舗 伊東胡蝶園
御料 御園化粧品發賣元 丸見屋商店
(191)

# 朝鮮の珍書

## 二

文學博士　三浦周行氏談

○日本と高麗半島との交通は、有史以前より、頗る密接なりしことは、今更ら言ふ迄もなし。此と同時に文化の接觸も、亦た同樣と認定す可し。應神天皇の御代に、百濟より論語、千字文を獻じたりと云ふ事は、要するに多くの事實中の一事實に過ぎず。

○壬辰の役は、少くとも我が學問界に、意外の貢獻をなせり。（第一）書籍の輸載也。（第二）活字の輸入也。（第三）製本及び印刷術の傳習也。乃ち朱子學の研究の如きも、此れが爲めに多大なる刺戟を被りたるが如し。

○例せば權近の『入學圖說』の如き、李退溪の『自省錄』の如き、若しくは『朱子書節要』の如き、何れも寛永、正保の間に於て刻せられたり。山崎闇齋の如きも、李退溪に負ふ所少からず。東肥の醇儒大塚退野の如きは、最も然り。乃ち懷弁本楠ト元出東野兩先生の如きも、亦た若干の感化を受けたるものに似たり。蒙洪水翁が、寛永年間、小楠堂塾を辭して、郷に還るに際し、先生は特に李退溪の語を書して、其の贈言とせられたり。其書今尚ほ掲げて、青山神堂にあり。

○禪家の方面に於ても、西山大師の著にかゝる『禪家龜鑑』は、其の門人慶暦己卯一我が天正七年一の跋文あるもの、既に寛永年間に刻せられたり。予が所藏の一には『寛永十五稔仲春開板』とあり。而して此也にも、禪家龜鑑の標註抔も出來たり。

○著者の西山大師も、其の門弟たる、跋文を書きたる松雲大師も、何れも壬辰の役には、大關係ある人物也。西山大師は、朝鮮義軍の主唱者にして、松雲大師は、和戰兩方面に、最も努力したる傑僧也。我國に於ては、雪齋長老にも比す可き人物たりし也。

○朝鮮にて著述せられ、若しくは出版せられたる佛書の、我國に於て翻刻せられたる中にて、唐僧雲栖の『一切經音義』の如きは、支那に於て尤も珍重せらる。楊守敬が之れを評して『佚文秘籍不可勝記、誠小學之淵藪、叢林之渦寶』と讃美したるは、偶然にあらず。此書は高麗板一切經中にありしを、京都獅谷忍徹上人の寫學なる、之れを單行本として、出版せんとして、其業半ばにして未だ遂せず。其の遺弟等相ひ繼ぎ、元文年間に、之を完成したりと云ふ。

○此書は支那に於ては、佚書たりしも。五代の周顯德年間、高麗より使を遣はし、金を齎らして、之を求めたれども得ず。後之を契丹に獲て、大藏經中に刊行したりと云ふ。されば我が元文刻本は、殆んど支那人の手に買收せられ、日本に於ては、却て得可からざる珍書の一たはなりぬ。

○又た延享年間高野山北室院藏版にかゝる、希麟の『續一切經音義』も亦、專門の範圍たる滿洲特産物の輸出貿易上より主として論述すべし。

一、三線連絡距離比例制度の實施は、對支國との商業關係上滿鐵沿線各地の經濟的發展を促進し、在滿同胞を治く種益するを以て滿蒙開發上、一日も忽諸に附すべからず。

滿蒙開發の第一要義は我同胞の移住を奬勵するにあり、如何に移住を奬勵するとも移住者の就業を容易にし其職を確保するにあらざれば到底目的を達し難きなり。而して現在邦人の對支國輸出入業の狀態を觀るに輸入にありては從來多くは大連商人の手を經由しつゝありしも數年前重要輸入品（母國より滿洲へ輸入品）十數種に限り試驗的に三線連絡運賃割引實施せられより奥地居住の貿業者は追々母國と直取引を開始するに至り其の恩惠に浴するもの漸く多きを加ふるに至れるは慶すべきの現象なり。

然るに彼の滿蒙特産物の大宗と稱せらるゝ大豆豆粕等の輸出貿易に至りては依然大連の獨占する所にして、奥地邦商は僅かに其伸次ぎをなすに止まり母國の市場と直接取引をなすもの寥々として殆んど見るが如く現狀以上に向上するは容易ならざるのみならず却て萎縮の狀態にあるが如し。勿論關門等に對しては產地各驛より大連經由商船連絡輸送の途あり、雖も是等大工場との取組は奥地小商人の難事とする所にして、殊に碇泊時間の關係及び船腹割當等の關係より關門揚げの如き多くは後廻しとなりて大連埠頭に停滯し延著は一部の人の主張する如く亞刺比亞國には非ざるなり）當時南蠻は、亞國の厄に過ふもの鮮からざるは予が數年前奥地產物を大連經由により連絡輸出をなしつゝありし時代と何等撰奪を被り、日本に對し怨みを有もしたるは事實ならんも、元來當時蒙古の元朝は明の爲めに滅亡され居ればなり。且また當事の日本側の蒙古と稱するは南蠻と稱するは當らざるなり。今の南洋瓜哇を稱したるを、朝鮮側の史料によりて判明せしが（南蠻は一部の人の主張する如く亞刺比亞國には非ざるなり）當時南蠻は、

▽日本側史料の事實を一府

▽其來襲を殲滅せんと圖りたるは、蒙古軍の加盟せる如く見たるは、全く誤れるなり。尤も當時明が倭寇の爲めに苦みて屢々朝鮮と共に

▽歷史上に有名

▽院鮮連帶の特約

▽取引先を巡訪

▽賛成の理由（一）

△賛成の理由（一）

今自己の經驗に鑑み在滿貿易業者として實地の立場に據り最も公平なる賛成の理由を概述せんとす、尤も予は專ら自己見解を以て左に主要なる賛成の理由を概述せんとす、尤も予は專ら自己

# 牛島史蹟調査に就て（一）

文學博士　三浦周行氏談

▽長崎の地理書

▽日本側史料の事實を一府

▽歷史上に有名

▽院鮮連帶の特約

▽取引先を巡訪

▽賛成の理由（一）

△賛成の理由（一）

# 朝鮮の古城郭（四）

八木奘三郎

# 朝鮮の古城郭（四）歷代城郭の變遷（承前）

（乙）三國時代の城郭（其二）百濟の慰

# 朝鮮の古城郭（四）歷代城郭の變遷（承前）

（乙）三國時代の城郭（其二）百濟の慰


活躍せる十一月號
新少年
立太子禮奉祝記念＝新少年義勇團愛國的の大飛躍……團長名和少將
飛行機建設の壯擧
「寄附券」本號にあり
總監督長岡中將
法學博士岡松參太郎先生著　全一冊　並製金參圓八拾錢　上製金四圓拾五錢　送料（内地十二錢）
鮮支四十錢
京都法學會發行
無過失損害賠償責任論
發兌　平和出版社　東京振替口座東京八七八七番

學界之權威
法學博士岡松參太郎先生著
第一部　第二部　第三部　第四部　第五部　第六部　第七部　第八部　第九部　第十部
研究叢書
出來
加藤先生繁著
支那古代の研究
菊判　全一冊　價壹圓　金壹錢八錢　送料
有斐閣

附錄
奉祝立太子禮十一月號
文部省指定の奉祝唱歌
少年と少女
日本少年
定價各十六錢
東京時事新報社

日本少年
立太子禮
全國少女の友
賀表捧呈
記事及び寫眞
十一月號
特別附錄
立太子禮記念
しをり十枚
獨探の給仕
少年探訪
日本海の大將
日本兵の強さ
蛇捕り鎗
教師の生徒
娘を尋ねて
畫と寫生
朝鮮土產
科外講話
銀杏の實
木犀の香
窓あかり
少女の友
一冊　拾貳錢　郵稅一錢
東京市京橋區

## □先帝御製編纂由來

聖上、先帝の御盛德を追慕し給ひて

聖上陛下には先帝の御盛德を御追慕の餘り一日御歌所々長を召させられ右御製編纂の御内沙汰ありし趣にて今般渡多野宮相より改めて勅裁を仰ぎ公布せられたる次第なりと尚編纂部は御歌所内に設けられ部長には入江御歌所々長を以て之に任ずる事に定められ幹事には主事々務取扱近藤久敬氏任せられ山縣、徳大寺両公、黑田清綱子顧問に仰せ付られたり（東京特電）

## ◎英軍目的地點奪取

倫敦來電に曰く英軍は二十一日ソンムに於る攻撃に依りて繼ての目的地點を奪取し獨兵を捕虜とせる旨發表したり（電報）

## ◎露軍稀有の勝利

露軍はドルナグアトラ及びタノポール、ツロオフ間の鐵道線路の東北方に於て稀有の大勝利を博したり（紐育電報）

## ◎露國騎兵中將來朝

露國騎兵中將マキモウイッツは二十三日朝露國義勇艦ペンザ號にて敦賀に入港同日午前九時東上せり要務は軍需品に關してなるべし（敦賀特電）

## ◎果物對露輸出業者に注意（上）

實情を察すべし

滿洲及露領に向け輸出されつゝありし朝鮮產の生果が遽なく虎疫流行の餘波を受け其爲め關東都督府は府令を以て之が輸入を禁止し折柄出盛期に際會した華果の如きは多大の打撃を蒙り大邱、京城、黃州、京城等の主產地の當業者は殆んど其處置に困じ果たる次第なり最初の都督府令によれば惡疫流行地を發送したものは安東縣に於て卅五倍のホルマリン液にて消毒し又病源地にあらざるも病源地を通過するか又は病源地より發送したるものと同時に運送し來れる果物も亦安東縣にて嚴重なる消毒を行ふと云ふものありしが其後總督府より都督府に交渉の結果病源地を發送したる生果に對しては前同樣の消毒を行ひたる後通過せしむるも其他の地方より滿洲方面へ發送せんとするものにありては當該衛生官憲に於て無病地生產の果物なることの▲證明書を添附する時は安東檢疫所は單に荷物の外皮のみを消毒し目的地に向け通過せしむることとなりたり然るに朝鮮に於ける華果生產業者にして尙未だ此事を周知するものの少きものゝ如く惡疫流行地にあらざる地方の當業者が空しく生產品を貯藏し其の處分に窮せる向もある由なれば是等は速に前記の方法により輸出を試むるを得策なりとす尙又此問題の質地調査として哈爾賓地方に出張中なりし京城の果實業者中村友次郎氏が此程歸來しての談

## □皇后陛下行啓

有りし昔の俤を偲ばせ給ふ

皇后陛下には像て御出されたる如く二十三日午前十時御茶水女子高等師範學校に行啓あらせられ岡田文相、山川帝大總長以下同行職員生徒の出迎を受けさせられ中川校長の御先導にて階上の會議室なる便殿に入御あらせらる、此の日陛下には濃き淺黃色なる御洋裝に純白の鳥毛を總なと飾りたる同色の帽子を召され御機嫌麗はしく諸員に拜謁を賜ひたる後各室の實地教授を順次御巡覽あり後御叢餐を召され午後一時附屬幼稚園に成らせられる此處は陛下御幼少の砌御在學あらせられし所なるが建物其他昔ながらの儀を止め居る事なれば去りし昔の御事をも偲ばせ給ひつゝ無邪氣なる生徒等の豆細工等を覽はせ給ひ更に運動場に成らせられ生徒等の運動を御覽あらせられ午後三時還啓あらせられたり（東京特電）

## ◎奉天より

及び支那各地を歷遊して歸國す[illegible]氏は若井[illegible]氏の他[illegible]男其他官力な[illegible]

▲戰線運輸者[illegible]

[illegible]

▲黑龍省の大金鑛[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲

# □新年詠進歌御題

新年詠進歌の御題は宮內省御歌所にて研究中なりしが愈々

「遠山雪」

と決定し二十三日發表相成りたるが締切期日は十二月三十一日なり（東京特電）

# 戰爭の爲に目覺めたる最近の露西亞

參謀本部附歩兵少佐　井染藤郎氏談

露國大使館附武官補佐官として大正元年以來露國に駐在、今回參謀本部附を命ぜられて歸朝のため入京、巴城館に投宿せる歩兵少佐井染藤郎氏は最近の露西亞に就き語つて曰く

## ▼我國に對する國民的好感の發露

最近露西亞に於いて私が深く感じた事は閑院宮殿下の御訪露に對して上下を擧げて露西亞の國民が御歡迎申し上げた事である、今回宮殿下に露國の歡迎振りが如何に深甚であつたかを日本內地に詳知せしむるには列强の使臣又は皇族を迎へたその時と比較して見る事が最も捷徑である。今から四年程前千九百十三年の夏、今佛國の總司令官であるシヨツフル將軍が大統領の命を承け軍事特使として來た時、又翌千九百十四年の七月に大統領のポアンカレー氏が自から來朝されたが、その時も私は大使館にゐて演習や觀兵式やその他の儀式にも參列したが、その時に比べると今度の閑院宮殿下に對する歡待とは大分の差がある、宮廷に於ける御接待は勿論、市中の人氣は素晴しいものであつた、最も之れは開戰前ではあつたけれども戰爭中に羅馬尼の皇太子、現今帝位に就いて居られるフエルディナン殿下が御來朝の當時と雖も到底這般の比では無かつたのである、一體露西亞人は日本人程物見高い國民で無く、戰爭が勝たうが負けやうが一向平氣である位でポアンカレー氏の來られた時の如き市民は例の如く冷淡で通路に並んで迎送するなどといふ事は莫かつたのだが宮殿下の御通路には市民が人山を築いてお迎へ申し上げた程で、宮中の驚動なる御接待と共に市民が熱心に驛迎の表情を示したといふ事は露西亞の上下が、充分に日本の實力を認めた反映として受取る事が出來る、洵に愉快に堪へないではないか

## ▼新協約と各階級の歡喜

亦日露親善の楔子とも見るべき新協約に對しては露國の各階級を通じて好感を以て迎へてゐる、あの當時日本では國民を擧げてその屬國に熱狂してゐるのに露西亞では餘り冷淡過ぎると云ふ樣な說が傳はつたが、それは兩者の國民性が根底から異つてゐるからである、露西亞人は御承知の通り冰漠たる東歐羅巴の嚴寒に生れ、その大自然に育くまれたために萬事に悠揚な所がある、事に當つて容易に喜怒哀樂の表情を見せない開戰以來いくら大捷しても祝賀會などをせぬのみならず、食つてレンブルクが陷ちた時鳥渡旗を出した以外には戰に勝つたと言つて騷ぎ出さない國民である、そこで今度の新協約の如きも實際の利益は日本よりも却つて露西亞にあるにも拘らず日本の樣に空騷ぎをしなかつた、それでも稍意外に感じた事は示威運動として市民の歡迎が吾が大使館の前へ來て萬歲を三唱した事だつたが是等を以て見ても新協約が露西亞民族に對して大なる感動を與へた事が判る、一般の有識者はいづれも日本の武力を認めて露西亞が近き將來に極東營の完全なる地歩を築かんとするには日本と提携する事の最も有利である事を自覺し、口に筆に頻りと唱道せられてゐると同時に下層社會の者にあつても日本を兄弟國の如く思ひ親もしく思ひ何かは知らず、日本と同盟を結ぶといふ事を衷心より喜ひ、その結果によつて享ける力の大なる事を感じてゐる、戰爭の終了に就いても別段に注意を惹く程問題になつてはゐない、昨年の十二月聯合軍の會議で今年の一月から攻勢を執る事を決議し、それと同時に獨逸が機先を制するためにヴエルダンの攻略にかゝつたけれども遂ひに之れを陷し入れる事が出來ずに終つたが併し聯合軍は寸歩なり尺歩なり攻勢に出でつゝある事は言ふまでも無く羅馬尼も露比國の如く叩きつけられるやうな事は無い筈である戰爭の終結を豫想する事は此の秋から冬の戰鬪を終つて來年の春になつてみないと解らない、何故ならば露西亞の北半部は非常に沼澤地が多く、然かも雨が烟る多い關係から兵を進めて攻勢に出る事は困難である、そこで何うしても結氷を俟つて戰を進めなければならぬ、來年の春までには勝つには勿論勝つが唯如何なる程度の勝利を得るかその勝方によつて將來を卜する事を正當とするため今の所全く見當がつかぬやうであるが唯慨ふ事は言ひ得る、聯合軍が最も有利なる攻勢に出づるのは來年の春過ぎである——と

## ▼國民生活の革新

それから近頃露西亞の財政が著しく窮迫して來たと傳へる事があるが之れは甚だ皮相の見であつて、成程正貨の用意に乏しく外國輸入品の決濟には不便を感じ、英國の資源に俟つてゐるけれども、露西亞內地の景氣は頗る良いのである、一般の生活は昂上し諸物價は騰貴したが戰爭のために口を潤ほしたものは甚だ少なくない、不換紙幣ではあるけれども金はよく動いてゐる、殊に露西亞が勃來の發展上に好結果を見た事は地方の農民に莫大の資金が散布された事である、それは平常ならば四合紙一本五錢位である牛乳が四五錢となつたり、麥藁の如きに至るまで平常の三倍以上になり今日まで疲弊しきつてゐた農民が俄かに富裕に爲つた一方禁酒令が出たために從來ウオツカを煽つては爲す事も無く思ひ惑ひ、その結果によつて享ける力の大なる事を感じてゐる、戰爭の終了に就いても別段に注意を惹く程問題になつてはゐない、昨年の十二月聯合軍の會議で今年の一月から攻勢を執る事を決議し、それと同時に獨逸が機先を制するためにヴエルダンの攻略にかゝつたけれども遂ひに之れを陷し入れる事が出來ずに終つたが併し聯合軍は寸歩なり尺歩なり攻勢に出でつゝある事は言ふまでも無く羅馬尼も露比國の如く叩きつけられるやうな事は無い筈である戰爭の終結を豫想する事は此の秋から冬の戰鬪を終つて來年の春になつてみないと解らない、何故ならば露西亞の北半部は非常に沼澤地が多く、然かも雨が烟る多い關係から兵を進めて攻勢に出る事は困難である、そこで何うしても結氷を俟つて戰を進めなければならぬ、來年の春までには勝つには勿論勝つが唯如何なる程度の勝利を得るかその勝方によつて將來を卜する事を正當とするため今の所全く見當がつかぬやうであるが唯慨ふ事は言ひ得る、聯合軍が最も有利なる攻勢に出づるのは來年の春過ぎである——と

リゲツト將軍——朝鮮ホテルにて（向て左よりリゲツト少將、高野三井支店長、リゲツト夫人、ヨンソン大佐）

# 天安

▲產產物品評會　天安郡地主會には來る十一月十二日同校內に於いて秋季大運動會を開催せんとて其の準備中なるが

▲鐵道員來る　佛領印度支那の鐵道會社員ストラウド氏廣大にて異常の發達を遂げ現在採金場四十万餘、工夫三千二百餘人に及ぶ、五日より十七日迄三日間天安公立普通學校に於て招魂遥拜式を擧行し併せて競技會を開催せんとて其の準備中なるが

▲運動會　來る廿三日總會を開き南山公園に於て衛生に關する講演の事項及び萬國射擊を爲し當品授與の計畫にて目下準備を決定し數日後に打ち出すべしとの事なり

# 文展審査

日本畫と彫刻

文展日本畫審査會は二十二日午前十時より東京美術學校內に於て上記彫刻部は常設學士陸內に於て各審査員立會散の結果日本畫は左の如く推薦、永久無鑑査二名、特選十八名、彫刻は推薦なく特選五名に決定したり（東京特電）

▽推薦　菊池契月上村松園、

▽特選　室君（松岡映丘）寒山拾得（橋本關雪）夕立（池田輝方）未笄の女（西山翠嶂）阿彌陀（村山華岳）山月四趣（田中頼璋）こぞのけふ（池田蕉園）蟬噪（都路華香）流の里（山下竹齋）早春（水田竹圃）竹生島（川村曉雄）夕月（池上秀畝）華厨（小村大雲）歌神（結城素明）花合せ（川崎小虎）海邊八題（川北微峰）島二作（小野竹橋）群芳競研（平田松堂）

▽彫刻特選　晩鐘（北村西望）絶望（建畠大夢）旦老人の肯像（堀進二）闇路の人々（小倉山右一郎）川邊にて（池田勇八）

# 自殺を企てし百萬長者

株式に失敗して

大阪市北濱の富豪にて現には金一百萬圓を公會堂設立の爲め寄附したる株式仲買人岩本榮之助氏は今回端なくも大損失を來し二十二日夜八時拳銃にて自殺を企てしが彈丸は急所を外れたる爲幸に死を免れたり遺書は取引先に對する善後策、家庭の後前等細かに記されあり氏は本年四十歳商等商業學校卒業後一年志願兵として入營現今豫備歩兵中尉にして大阪有數の青年紳士なり因に此の椿事世上に傳はるや一般の同情翕然として氏の一身に鍾まれり（大阪特電）

◎忽滑谷師歸京　元山方面へ巡錫中なりし忽滑谷師は二十三日夜京大和町曹溪寺に一泊す

◎故中村學士燒香式　金剛山眞珠庵に於て怪死を遂げたる總督府山林課技手林學士中村孝彥氏の一身に鍾まれり（大阪特電）

# 大企業が勃興する

此の外露西亞の交通者が今來年から五箇年計畫で一萬哩の鐵道を敷設すべく、三十億圓の豫算を編成中である如き、亦最近の農民が俄かに金は入る、仕事は幾何でもあるといふ風潮で、女眞などの沿海州に都つて大なる感動を與へた事が判る、一般の有識者はいづれも日本の武力を認めて露西亞が近き將來に極東營の完全なる地歩を築かんとするには日本と提携する事の最も有利である事を自覺し、口に筆に頻りと唱道せられてゐると同時に下層社會の者にあつても日本を兄弟國の如く思ひ親もしく思ひ何かは知らず、日本と同盟を結ぶといふ事を衷心より喜ひ、その結果によつて享ける力の大なる事を感じてゐる、戰爭の終了に就いても別段に注意を惹く程問題になつてはゐない、昨年の十二月聯合軍の會議で今年の一月から攻勢を執る事を決議し、それと同時に獨逸が機先を制するためにヴエルダンの攻略にかゝつたけれども遂ひに之れを陷し入れる事が出來ずに終つたが併し聯合軍は寸歩なり尺歩なり攻勢に出でつゝある事は言ふまでも無く羅馬尼も露比國の如く叩きつけられるやうな事は無い筈である戰爭の終結を豫想する事は此の秋から冬の戰鬪を終つて來年の春になつてみないと解らない、何故ならば露西亞の北半部は非常に沼澤地が多く、然かも雨が烟る多い關係から兵を進めて攻勢に出る事は困難である、そこで何うしても結氷を俟つて戰を進めなければならぬ、來年の春までには勝つには勿論勝つが唯如何なる程度の勝利を得るかその勝方によつて將來を卜する事を正當とするため今の所全く見當がつかぬやうであるが唯慨ふ事は言ひ得る、聯合軍が最も有利なる攻勢に出づるのは來年の春過ぎである——と

# 國民生活の革新

それから近頃露西亞の財政が著しく窮迫して來たと傳へる事があるが之れは甚だ皮相の見であつて、成程正貨の用意に乏しく外國輸入品の決濟には不便を感じ、英國の資源に俟つてゐるけれども、露西亞內地の景氣は頗る良いのである、一般の生活は昂上し諸物價は騰貴したが戰爭のために口を潤ほしたものは甚だ少なくない、不換紙幣ではあるけれども金はよく動いてゐる、殊に露西亞が勃來の發展上に好結果を見た事は地方の農民に莫大の資金が散布された事である、それは平常ならば四合紙一本五錢位である牛乳が四五錢となつたり、麥藁の如きに至るまで平常の三倍以上になり今日まで疲弊しきつてゐた農民が俄かに富裕に爲つた一方禁酒令が出たために從來ウオツカを煽つては爲す事も無く思ひ惑ひ、その結果によつて享ける力の大なる事を感じてゐる、戰爭の終了に就いても別段に注意を惹く程問題になつてはゐない、昨年の十二月聯合軍の會議で今年の一月から攻勢を執る事を決議し、それと同時に獨逸が機先を制するためにヴエルダンの攻略にかゝつたけれども遂ひに之れを陷し入れる事が出來ずに終つたが併し聯合軍は寸歩なり尺歩なり攻勢に出でつゝある事は言ふまでも無く羅馬尼も露比國の如く叩きつけられるやうな事は無い筈である戰爭の終結を豫想する事は此の秋から冬の戰鬪を終つて來年の春になつてみないと解らない、何故ならば露西亞の北半部は非常に沼澤地が多く、然かも雨が烟る多い關係から兵を進めて攻勢に出る事は困難である、そこで何うしても結氷を俟つて戰を進めなければならぬ、來年の春までには勝つには勿論勝つが唯如何なる程度の勝利を得るかその勝方によつて將來を卜する事を正當とするため今の所全く見當がつかぬやうであるが唯慨ふ事は言ひ得る、聯合軍が最も有利なる攻勢に出づるのは來年の春過ぎである——と

# 日露兩國は北滿洲

に於て永く衝突を避け親善を保ち得る樣なる事となる又東清南部線の讓受に就いても別段に注意を惹く程問題になつてはゐない、昨年の十二月聯合軍の會議で今年の一月から攻勢を執る事を決議し、それと同時に獨逸が機先を制するためにヴエルダンの攻略にかゝつたけれども遂ひに之れを陷し入れる事が出來ずに終つたが併し聯合軍は寸歩なり尺歩なり攻勢に出でつゝある事は言ふまでも無く羅馬尼も露比國の如く叩きつけられるやうな事は無い筈である戰爭の終結を豫想する事は此の秋から冬の戰鬪を終つて來年の春になつてみないと解らない、何故ならば露西亞の北半部は非常に沼澤地が多く、然かも雨が烟る多い關係から兵を進めて攻勢に出る事は困難である、そこで何うしても結氷を俟つて戰を進めなければならぬ、來年の春までには勝つには勿論勝つが唯如何なる程度の勝利を得るかその勝方によつて將來を卜する事を正當とするため今の所全く見當がつかぬやうであるが唯慨ふ事は言ひ得る、聯合軍が最も有利なる攻勢に出づるのは來年の春過ぎである——と

# 戰爭を免れ

# 松花江の中心點は

三姓であつて三姓は古來江の水運に依つて吉林、黑龍神地の習易連路に成つて東清鐵道の開通前までは非常の賑盛を極めた處で夏は船又は筏で付次第見積書送る、鑛用ゆり鉢585麻柳材所麻櫟桂櫟◎本明雜木製材所其他雜本各種京城黃金町三井物產前

◎園芸教授　方圓社　旭町三番地　初段教授　入口　秀石

◎外務員募集　旭町東京旅館內　生田　580

◎店員並勸誘員募集　履歷書持參市內に保證人を要す　並木町二丁目　582

◎狂犬病豫防注射　尿姙娠診斷　大猫診療人院用希望者　電話取次一四一番　高木獸病院　581

◎猟銃讓　英國ボーネヒ會社エゼクタ十二番二連無鶏頭原價二百五圓を適當値段賣却　在庫500

◎日本建瓦　二階屋三室所在地、永樂町一丁目二十七番地ノ二　573

◎貸家　日本建二階家間數五、水道、電燈湯殿付　黃金町三丁物產附近　572

◎古本熱心高價買入　是非御試賣を乞ふ　電話二七八一番　564

◎園芸教授　方圓社　旭町三番地　初段教授　入口　秀石　580

◎外務員募集　旭町東京旅館內　生田　579

◎店員並勸誘員募集　履歷書持參市內に保證人を要す　並木町二丁目　582

▲申込後中途解約中止の節は料金返還せず

# 京日案內

普通三十錢　四前金　番外一位前金　一番外一位前金　五錢　明名一國毎に

# 簿記生徒募集

卒業後は銀行會社商店等へ確實に就職紹介す規則書三錢を要す

京城簿記明治町二丁目

# 京城簿記專修學館

# 購買

朝鮮總督府入札式紙、帳簿、四拾九點、四拾五點、四百磅錢、線其他詳細八十月二十三日本府官報ニ在リ

# 遞信局

# 古着古道具類

不用品

右賣買に買受申候也

京城旭町一丁目　クズタニ商店（電話一八一二）

# 產婆

京城南山町三丁目一八　マッサージ

# 三浦小糸

電話一四四〇番　543

# 中古ミシン賣買

御用の方は御一報次第參上可仕候　京城鍾路一の二七　電話一三三八番

# 楠商店

467

◎京城春川間行自動車貨金片道四圓　南大門通春川間毎日午前八時出發　電話二一九番

# 廣橋自働車

主務　金正　淵428

# 新荷著廣告

米國製最新式

# スケート

定價表無代呈進

特約店希望申込あれは至急

京城本町二丁目　篠崎運動具店　電話一三〇三番　振替四六八番

# 賣婦人連金剛山行

◎賣婦人連金剛山行　大蟻と云つて犬の宿屋が有つた其處で旅の樵夫

# 犬を泊めて御馳走

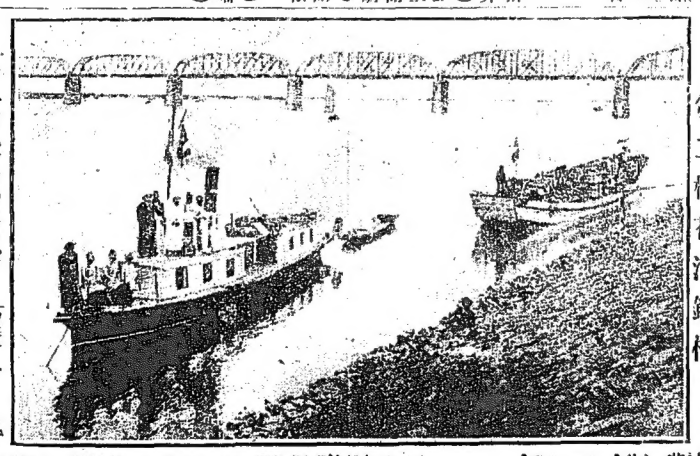
したものであると云ふ事だ又松花江の上流地方は昔の渤海國の跡で殊に渤海は朝鮮を撥き東京と稱し我國とも交通往來して北滿洲特種の文明を作つた處である又渤國の發祥地も亦此の松花江の上流に當つて居る、古來此の流域から起つて

# 支那中原に覇を唱へ

又雄を誇つた民族の少なくないのに見ても如何に此の流域の民族の强を養ふに適したる豐沃の地であるかと云ふ事が覗ひ得らるゝのである。（完）—（藤村生）

# 七豐沃の地

然るに兩國勢圏の境界を松花江の如き天險の一線を以て劃し東は北朝鮮の清津を經て會寧吉林より松花江に入り西は東蒙古の境を經て奠地に達して日露兩國の經濟勢力圏を判然と劃するに至つて初めて



第二松花江鐵橋

# 鑛物定量分析

京城府太平通（朝鮮公論社左小路）　電話一三四四番　坂元分析所　538

# 恩給年金

年金月利立替　壹分即金　497

確實堅實引退年齡　一切秘密嚴守　即時取引退職料　京城若草町前同　元祖

# 博多屋

本店　（大正館同）　494

# 恩給年金

立替　利子年一割　515

京城中央郵便ポスト前　毛利

# 西村商會

# ブラシ

製造　京城大和町一丁目　（日出樓角）　商會　492

# 銃砲火藥

獵具　京城本町三丁目電話二〇九二番　488

# 增戶銃砲店

# 柳製專賣鞄

其他色々　447　銅線　京城本町一丁目　高木旅行用具店

# 魔法瓶中瓶取替

576　京城南米倉町　朝市場通

# 上野醫院

◎代診至急採用

# 家具木取

販賣注文內地材製材乾燥付次第見積書送る、鑛用ゆり鉢585麻柳材所麻櫟桂櫟◎本明雜木製材所其他雜本各種京城黃金町三丁目物產前

◎園芸教授　方圓社　旭町三番地　初段教授　入口　秀石　580

◎外務員募集　旭町東京旅館內　生田　579

◎店員並勸誘員募集　履歷書持參市內に保證人を要す　並木町二丁目　582

◎狂犬病豫防注射　尿姙娠診斷　大猫診療人院用希望者　電話取次一四一番　高木獸病院　581

◎猟銃讓　英國ボーネヒ會社エゼクタ十二番二連無鶏頭原價二百五圓を適當値段賣却　在庫500

◎日本建瓦　二階屋三室所在地、永樂町一丁目二十七番地ノ二　573

◎貸家　日本建二階家間數五、水道、電燈湯殿付　黃金町三丁物產附近　572

◎古本熱心高價買入　是非御試賣を乞ふ　電話二七八一番　564

▲廿五歳以上の外交家（監督員外交員）採用希望者履歷書携帶午前中來談　京城本町二の一〇六大正生命支部

◎金融　月收の御方へ極秘信用融通便宜立替御報同又御來宅　大和町三ノ三二（拓殖前）起木屋　554

◎是非御試賣を乞ふ　電話二七八一番　437

▲本町四丁目　書肆群書堂

# パキモノ

仁川歳位迄の者至急入用　商に經驗ある宮町いせ感應物店　564

# 寫眞の好期節

多年東京江本本店に於て修業其後大坂光村合名社寫眞部主任同三越呉服店寫眞部技師として永年從業仕り居り處尤も今般左記の所に於て開業仕り候間尤も親切丁寧を極め入念に仕り候

▲寫眞　御家庭御撮影の節は迅速出張可仕候　電話二八三三番　京城永樂町二丁目　取次　赤門寫眞館

# 寫眞館

# 彙館儀

新刊書御案內

書名　著者　定價

◎傳補者の法律顧問　森健宗　特一八〇
◎朝鮮受驗法律講義　坂上朝吉　特七五
◎著名人の危險なる年齡　廣武治課　一二〇
◎逸西四方廣瀨あさの　一〇〇
◎マクベス　ロムバード　一〇〇
◎田中式豚肉調理法　田中宏　八〇
◎赤穗義士四十七士傳　芳野萬吉　一八〇
◎月夜の脚本集　高安三郎　一八〇
◎支那論　山路愛山　六〇
◎神尾式速算法　神尾鈴吉　一〇〇
◎荷風傑作鈔　小野方　八〇
◎國語解　雙舌通解　同　四〇
◎同朝鮮行政法規大意　同　四〇
◎同法律問答　同　四〇
◎同法律問答　同　四〇
◎朝鮮巡査受驗提要　永野浩　特四五
◎大日本寺院總覽　堀知　特一〇〇

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八六　振替口座二三七七

# 渡邊默禪

## （一四〇）その夜

源太が何の爲にいきなり銃を把つて打出しのか、鳩子も大野もその意義を知らなかつた。或ひは激しい精神の壓迫から發作した狂的行爲ではあるまいかと、兩う疑はれるほどに餘りに突然な彼のやりかたであつた。が、跡を追蒐けて岩窟の方へ出て見て、始めてその謎が分つた。二人は氣づかれに居たけれど、何者か洞の外に立つて覗き込んでゐる姿が、闇に慣れた彼の眼にちらりと映つたので、それを逐ひ出すためにいきなり發砲したのであつた。

外には最うそんな怪しい人影が無くなつてゐた。源太は多分落葉松の林の中へ逃込んだものだらうと言つた。そして此先は何處にどんな敵が居るかも知れないから、十分に用心なさいと注意した。鳩子は相變らず平氣だつたけれども、大野だけは何となく不安でならなかつた。

大星川を渉つて驛屋下の道へ出ると、二三町先に小屋の灯が見え出した。卯太郎と生駒とが、三人車坐になつて、紙で拵へた盤の上に將棋を閲はしてゐた。生駒の顏には別に變つた樣子も見えなかつた。大野は來る途々偏しやと思つたことに裏切されたやうな氣がした。

鳩子は父と双んで隅の方に寢た。大野は厠に行く假態をして小屋の外へ出た。出る時にちよつと卯太郎の肩を敲いた。卯太郎はそれと悟つて跡から出て來た。

彼の話に依ると、宇霞は二人の妻が見えなくなつたのを心配したらしかつた。けれども卯太郎に托した自分の宛て手紙を見て安心して、それなり打棄てゝ置いたやうに聞做された。

その手紙には『鳩子さまの御一身上に二回までも奇怪の出來事が有つたについて、少し心當りの旅が無いでもないから、今夜鳩子さまに秘密の御相談を申し上げ、爲と御注意をしたい。一二時間失禮をします。どうぞ御心配なく』と當り障りなく書いてあつた。次に自分だけが出かけてから間もなく生駒も外出し、自分だちより少し先に歸つて來たことも卯太郎の話で明かにされた。大野の胸に一旦取消された疑ひが再び萌ひそめた。洞の外に佇んだといふ人影は正しく彼、然らばその暇心の者であらうといふ想像が、もう半分まで現實化されたやうに思つた。

鳩子は眠れなかつた。大野も絶えず輾轉打つて眠りもせぬ咳をしつゝ、それとなく彼を紛けた。と、生駒もまた同じ樣な苦しい思に翔かされたのか、容易に寢つかれぬ樣子で、時々起返つては眞なざを喫つてゐた。

父に一切を打明けて心の儘の處分を待つことにしようか。それとも最う暫く秘して置かうか。といふことは既に彼女の問題でなくなつてゐた。打明けてから當然來るべき筈の結果の一つとして、彼女の最も厭（切ぬ痛手——今まで眞の姉と信じて から親しんでゐた妻子を、惡魔の犧牲者にして、自分の家庭から引放して了ひ、暗黑な涙の谷に蹴落すといふことが、いかにも忍び難い悲慘事であるので、どうしたならば此の哀な假の姉を救ふことが能きるであらうか。こんな場合、最も高い潔い理想を樂に、正しい婦人としての自分にふさはしい行方を爲ようとすれば、どういふ手段をとるべきであらうか。希くは光にみちた愛の路を辿りたい。さてその路は何處に在? と悉うした心の迷であつた。でもそれが考へれば考へるほど取止のない空想だといふことが解つて來た。

想が果もなく展びれば展びるだけ社會の實情といふものと矛盾して、そこに遠い隔りが出て來ることを發見した。

▲活動寫眞雜誌（十一月號）映畫社發賣　▲婦人之友（男女同胞號）婦人之友社發賣　▲婦人修養號（婦人修養號）本誌に關する通信は京城日報社婦人修養號係宛　▲小學新報（十一月號）啓明會發賣

新刊紹介

▲現物界（十一月號）現物界社發賣

▲二十三日發送　兵庫發寄十五錢三十五錢東京十五錢十五錢大阪和歌山本町十五錢四十五錢

▲二十三日發送　兵庫發寄十五錢三十五錢東京十五錢十五錢大阪和歌山本町十五錢四十五錢

▲二十三日發送　兵庫發寄十五錢三十五錢東京十五錢十五錢大阪和歌山本町十五錢四十五錢

▲二十三日發送　兵庫發寄十五錢三十五錢東京十五錢十五錢大阪和歌山本町十五錢四十五錢

大阪期米（廿三日）

| | 付 | 高 | 安 |
|---|---|---|---|
| 當限 | 一三八三 | 一四四二 | 一四二八 |
| 先限 | 一四八八 | 一四八八 | 一四八七 |

▲二十三日發送　兵庫發寄十五錢三十五錢東京十五錢十五錢大阪和歌山本町十五錢四十五錢